

糖尿病重症化予防(フットケア)研修 (Ver.6 ウェブ研修版)

目的 糖尿病患者へのフットケアの意義を理解し、評価方法と技術を身につける

目標 1. 糖尿病患者へのフットケアの意義を理解する

平成20年6月2日作成(Ver.1)

2. 糖尿病患者への足病変の病態生理、治療を理解する

平成22年9月1日改定(Ver.2)

3. 糖尿病患者へのフットケアのための評価方法を学ぶ

平成28年7月1日改定(Ver.3)

4. 糖尿病患者へのフットケアの技術を学ぶ

平成29年2月5日改定(Ver.4)

5. 糖尿病患者の事例検討を通して、フットケアにおけるセルフケア支援を理解する

令和元年6月29日改定(Ver.5)

6. 予防的フットケア実施するためのシステム構築について考えることができる

令和3年6月(Ver.6)

7. オンライン、オンデマンドの場合はチャット機能および、質問期間を設け、学びを共有できる

※演習は、糖尿病足病変に関する患者指導について十分な知識及び経験のある看護師等が行うこと

①講義1、3、4、5:慢性疾患看護専門看護師または、糖尿病看護認定看護師

②講義2:糖尿病治療及び糖尿病足病変の診療に従事した経験を5年以上有する医師(糖尿病専門医が望ましい)

③講義6:本学会より理事または理事相当を推薦

日程	時間帯	所要分 数	項目	テーマ	ねらい	内容	方法
1 日目	9:00 - 10:00	60	講義 1	糖尿病患者の療養を支えるフットケアの意義	看護師が行う糖尿病患者への予防的フットケアは、一方的に患者の足のトラブルの有無をチェックし、必要な手当てを提供するということではない。患者の糖尿病や足の状態を捉える共に、セルフケア状況までを含めた評価(アセスメント)を行ったうえで、その患者に適したフットケアの方法を考え、継続的に実践していくセルフケア支援のプロセスである。このような糖尿病患者へのフットケアの意義を理解する。	1. 糖尿病患者への足への関心 2. 足の状態を共通理解するための働きかけ: 足を見る、足に触れるということ 足を見るのを促す、足に触れるのを促すということ 3. 足のケアを通して患者の生活を理解すること 4. 療養を支えるフットケア～継続していく大切さ 5. チーム医療における看護師が行うフットケアの意味	オンライン(ライブ)参加の不正防止の視聴管理として、以下の方法を取る 1. 入室状況の徹底把握 2. カメラオン(顔が確認できるようにする)での視聴の義務化。委員が適宜パトロールして確認。 3. 入室履歴の保管
	10:10 - 12:10	120	講義 2	糖尿病患者の足病変～病態生理から治療まで	糖尿病患者の足病変、病態生理、治療、検査について理解する	1. 糖尿病足病変の病態生理 2. 糖尿病神経障害の検査 3. 血流障害の検査 4. 糖尿病足病変の治療	
	13:00 - 14:30	90	講義 3	糖尿病患者のフットケアのためのアセスメント①	糖尿病患者の足の状態、全身状態、生活状況、セルフケア状況を理解し、患者の足の状態と取り巻く状況を含めてリスクをアセスメントできる	1. アセスメントとは 2. 記録用紙の使い方と意味 3. 糖尿病患者のハイリスク評価 4. 足の状態を捉える 皮膚の状態、神経障害、血流障害、生活状況 5. 全身状態を捉える 姿勢、歩き方、高血糖、低栄養、免疫力 6. セルフケア状況の把握 足への関心 フットケアに対する理解 生活習慣 足の問題に関する経験 サポートパーソン 7. 生活状況を捉える 足への負荷の状況-仕事 靴の選択 清潔習慣	
	14:40 - 16:30	110	講義 4	フットケアの実際～予防のためのセルフケア支援	糖尿病患者の置かれている状況やリスクの評価を基に、その患者に適したフットケアの実践ができ、セルフケア支援につなげることができる	1. 予防のための方法 清潔を保つ、乾燥を防ぐ、感染を防ぐ、蒸れを防ぐ、圧迫・ずれを避ける 2. セルフケア支援のためのポイント	
	16:40- 18:10	90	演習 1	糖尿病患者のフットケアのためのアセスメント技術①	糖尿病患者へのフットケアにおける足の状態のアセスメント及び、足病変のリスク評価の技術を学ぶ	下記の解説と、デモンストレーション実技動画の視聴 【アセスメント】 ・姿勢、歩き方、足の外観を捉える、知覚および血流の状態、靴や靴下の観察 ・生活状況、足の手入れの状況の確認 ・フットケア記録用紙の活用 ・足の状態をアセスメントする ・足病変のリスクを評価する ・神経所見演習(足背動脈、膝窩動脈、後脛骨動脈の触知、音叉、モノフィラメント、アキレス腱反射) 【フットケアの実際】 (1)患者の足を見る、触れる (2)アセスメントをする (3)必要なケア内容を検討する (4)処置を行う ①ゾンデの使用法 ②ニッパー、ヤスリによる爪のケア ③コーンカッターの使用法 ④レデューサーの使用法 ⑤保温 (5)セルフケアに向けての支援	左記項目についての講義を行ったのち、8つの手技(動脈触知、アキレス腱反射、振動覚、タッチテスト、ゾンデ、ニッパー、爪やすり、レデューサー)についてはデモンストレーション動画を視聴してもらいながらの解説を行う。最後に質疑応答を受ける。

	18:10-18:20	10	番外	動画作成方法について	自らのフットケア実践の動画を作成する方法について理解できる。	・デモンストレーション動画の視聴方法 ・8手技(動脈触知、アキレス腱反射、振動覚、タッチテスト、ゾンデ、ニッパー、爪やすり、レデューサー)を動画撮影するためのポイント ・動画データの作成と提出(NextCloud格納)方法	
2 日 目	10:00-10:10	10	演習2	事例分析と評価①	事例を展開し、フットケア計画の立案につなげることができる	事例の説明	1日目同様、オンライン(ライブ)参加の不正防止の視聴管理を行う
	10:10-11:40	90	演習3	事例分析と評価② -アセスメントと問題点の抽出	足病変のハイリスク状態にある糖尿病患者の事例を通してフットケア計画を立案する～アセスメントから問題点の抽出ができる	アセスメントから問題値抽出に至るまでの、事例検討(グループディスカッションと全体討議)	・オンライン(ライブ)上で、ブレイクアウトルームを用いた小グループで討議する。 ・討議では記録用のフォーマットを活用し、司会と記録はファシリテーターが担うことで討議に集中できる環境を作る。 ・演習3、4の各後半20分間で全参加者がメインルームに戻り各グループでの討議内容を発表し、学習内容を共有する
	11:50-12:20	30	講義5	糖尿病患者のフットケアのためのアセスメント②	アセスメントの統合と足病変リスク評価に伴う課題抽出過程を理解する	1.アセスメントの統合 2.足病変のリスク評価 3.看護問題/課題の抽出過程の解説	
	13:20-15:20	120	演習4	事例分析と評価③ -ケア計画立案	足病変のハイリスク状態にある糖尿病患者の事例を通してフットケア計画を立案する～看護問題から課題と具体的なフットケア方法を立案する	看護問題から課題と具体的なフットケアを中心とした看護計画の立案についての、事例検討(グループディスカッションと全体討議)	
3 日 目	10:00-12:20	140	演習5	糖尿病患者のフットケアのためのアセスメント技術② フットケアの実際～予防のためのセルフケア支援技術②	糖尿病患者へのフットケアにおける足の状態のアセスメント及び、足病変のリスク評価の技術を学ぶ 糖尿病患者のフットケアの予防のためのセルフケア支援技術を経験し、身につける	小グループで各参加者の一部の動画や画像を視聴しながら、適切/不適切な手技とその理由について共有し討議。(全参加者で共有したほうが良い内容は、メインルームで共有)	指定日まで: 1.参加者は、デモンストレーション動画を視聴し手技を理解しておく 2.参加者は、患者役・撮影役を調達し実技をおこない、指定時間(1手技1分程度で計10分以内)で作成した動画をNextCloud(事務局管理)に格納・提出しておく 3.ファシリテーターは担当グループの参加者の動画を確認し指導・助言すべき点を明確にする。その内容を全委員で共有する。 研修当日: 3. オンライン(ライブ)上で、小グループ(ブレイクアウトルーム利用)に分かれ、参加者個々の動画を視聴しつつメンバーで討議し、セルフケア支援技術の小グループでアクションプランの宣言を共有する。なお、アクションプランは、事前課題として作成しておいてもらう。
	13:20-14:00	40	演習6	まとめ-今後の糖尿病重症化予防(フットケア)の活動に向けて	自施設において、フットケアを実践するための方法を考える	自施設における、今後のフットケア活動計画(アクションプラン)立案内容を、小グループで討議、共有。	
	14:10-15:10	60	講義6	糖尿病重症化予防におけるフットケアの評価と今後の課題	糖尿病重症化予防におけるフットケアの評価と今後の課題を理解し、予防的フットケアを実践するためのチーム及びシステム作りを考える	1.平成20年度診療報酬における糖尿病重症化予防(フットケア)の位置づけ 2.予防的フットケアを実践するためのチーム医療及びシステム作り	1日目同様、オンライン(ライブ)参加の不正防止の視聴管理を行う